

土佐守左近將監兩人共也、卽刻參ル、略中左之通奉書四ツ折御書付壹通御渡候、

本文御屏風 八帖 和歌御屏風 十二帖

右各新造調進

本文御屏風繪所 土佐守光貞 和歌御屏風繪所 左近將監藤原光時

九月二十日、中山前大納言殿江被召、卽刻參表ノ口ニテ、前大納言殿頭辨殿御兩所被仰渡者、先御

書博士より本文色紙形目書付被差出候、則御渡在之候處、軸之處花田白並ビ同様ニ相成候ニ付、

左之通相定メ調進可仕旨也、

本文御屏風之御色紙

一帖 第一紅 二紅梅 三黃 二帖 第一萌黃 二花田 三白

三帖 第一花田 二白 三紅 四帖 第一萌黃 二花田 三紫

右之通今度御治定也、略下

〔西宮記臨時三〕菊宴

承和五年十月七日、菊宴、略中倚南面立墨容御屏風二帖、

〔江家次第第十二〕齋王群行

第二間内差進西當階下少向異裝飾御座、鋪兩面端帖二枚、其上鋪二色綾端帖帖半後立墨容御屏風

近例又立太  
宋御屏風

〔築花物語十六〕このごろ四年寛仁中ぐうのだいぶにて、ほうずじのおと爲光の御この、大な

ごん藤原におはする、みこあまたおはしぬべかりしを、みなうしなひ給て、たゞひめぐみひと

りをぞえもいはすかしづきたて、もたせ給へる、略中このとの、三位中玄やう藤原ひとり

おはすれば、それにやとおぼしたちて、むことりきこえ給、としごろはなにごとをかは、たゞこの